

12月19日（木） 杵築会場1日目

【質問者1】

ここに集っている方々は、皆杵築市を愛して杵築市にずっと住みたいという方ばかりだと思います。そういう方たちを前にこういった説明会をしなければならぬ執行部は非常に残念と思っています。今日は辛辣な発言が出てくるとは思いますけど、私たち一市民としては非常に弱い立場でございます。ですからここで質問者等に対してですね、不利益が絶対生じないということをもっと市長にお約束していただきたいと思っています。

また、ここでですね、回答していただいたことについては、すべて責任をもって回答していただくことを約束していただきまして次の3点を質問させていただきます。

まず永松市長に対してでございますけども、平成25年、29年の選挙はいずれも無投票でございました。市長のクリーンなイメージ、お話を私も何回かお聞きしたことがありますけども、非常に上手だということで、安心をもって市民は市長に市の運営を任せていたと思いますけども、一つ気になったのが市長の発言がですね、第三者的な発言が多いような印象を受け取りました。その点について違和感を持ちました。ここでですね、説明していただきましたけども、市長の方から市長の任期の間に必ず市の財政を健全化させるということですね、約束していただきたいと思っています。もしそれができないようであればですね、この責任を取ってですね、杵築丸という船長から降りていただいて、もっと行政運営にたけた方、失礼な言い方ですけど、そういった方に替わっていただくべきではないかと思っております。

次にもう一点、市長ですけども、財政再生団体ということにはならないと市長はおっしゃってましたけども、仮にですね市が夕張市のように財政再生団体になったときに、具体的にどんなことが起きるのか、市長から説明していただきたいと思っています。

最後の3点目ですけども、財政課長さんに対してです。それから私は個人的には皆さんすばらしい方だと思っております。そこに座っておられる方に対して私は、こういった失礼な言い方をしていることに対してお許しをいただきたいと思っています。

平成29年度の時点で経常収支比率は、先ほどの説明資料にもありましたけども、98.9%になったと、つまり平成30年のですね、今年の6月あたりにおいては、この数字は出ていたんじゃないかと思っています。市長の説明から言いますと、今年の夏にこういう悪化に至った新聞報道がございましたけども、それについては、財政課というのはですね、どこの市も一番のトッ

プの方が財政課長に座ります。財政を締めていく、市長に物申す、物申せる立場にある方だったはずですが、市長には、その時点でどう説明しているのか。市長からはどういう返事があったのか、その辺を言っていたかといと思います。

ここにですね、12月14日の新聞の記事がございます。非常にいい記事だと思います。「杵築市、甘い行政運営」、この中でですね、ある市の、おそらく〇〇か〇〇だと思うんですけども、財政課の方からの言葉がありました。どこも中期の財政計画に基づき動いているはずなのにという疑問視している、それは、中期財政計画との差がですね、発生したはずなのに今まで何もしなかったのか、その辺についてもご説明、その3点をよろしく願います。

【市長】

お答えいたします。

私の任期の間に、今回お示しをしております財政再建、緊急財政対策について全力で取り組んで、これは、市民の皆様方にある意味、ご負担を頂くようなことが、やはりこれはないとは言えませんので、例えば利用料であるとか、開館の使用の日数であるとか時間であるとか、それを見直さざるをえないということがございます。それをやり遂げるということで、自分の職責を果たしていきたいというふうに思っています。それから2点目の、財政再生団体、今は再建でなくて再生という言葉を使うようです。財政再生団体、今、夕張市ですけども夕張市について、財政再生団体になるとどうなるかという、例えばノート一冊、鉛筆一本買うにも本省の総務省の方のコントロールの下で決定していくということになりますので、それは、地方自治体というよりも国の直轄ということになりますので、給与とか、もちろん市民サービスとかですね、比べ物にならないくらいに厳しい状況に陥るということです。以上です。

【財政課長】

平成29年度の決算状況をどのように報告したかという、ご質問であります。平成29年度の決算は、平成30年の7月ごろに確定をいたしまして、9月議会に提出をいたします。その時点で、市長には数値的な報告は当然申し上げております。ただ、私の報告の内容が、現在のような危機感を持った報告ではありませんでした。私の認識が非常に甘くて、そこで現在のような状況になるという危機感をもって市長に報告ができておりませんでした。以上です。

【質問者 1】

あの関連しまして、最後でございます。財政課長さんにですね。今日の説明資料は大変良くできている資料だと思います。

これは市民に向けてではなくてですね、市の職員向けの資料としては大変良くできていると思います。非常に具体性に欠ける資料ではないかと思っています。あのですね、財政課というのはですね、謝まれば済むというものではないんです、この危機的状況を招いたのはですね、家庭においては、収入がいくらあり支出がどのくらいあるかというのをですね、誰も知らないという、誰も責任を取らないという、そういったことはないわけですね。財政課長が言わなければ、誰がですね判断するんですか、それは、非常に大きな問題だと思います。以上です。

【副市長】

ありがとうございました。続きまして、はい、前の方。

【質問者 2】

私は杵築が全国一、安全で住みよいところと思って、杵築に在住しておったんですが、突然と財政事情が悪くなって、年取ってこういうことに遭うとは思っておりませんでした。

杵築は、大変住みよいところで、災害も10年以上なかったと思っております。これに災害があったらどんな財政状態になったかと思っております。友達とかに杵築はもう人柄は温厚で、気候もいい、災害もないし、自慢をしていたんですが、こういう自慢ができないような状態になっております。

そこで3つほど質問があるんですが、職員の人件費をカットするのが続くようですが、杵築市の職員の給料は、市の類似、国東半島から別府にいたるところで、今まで給料が平均より上だったのか、それともカットして横並びになったのか、カットしたから悪くなったのか、その辺をよろしく願います。それと公共事業の見積もりが甘いんじゃないかと思うんですよ。もっと厳しく査定して公共事業をもっと土木事業というんですかね、そういうところをずっと締めたらどうですか。それとですね。もう一点は、市の余ったところとか、閑地にですね、ボランティアでいろいろしてくれている人がいると思うんですよ。市長もご存じと思うんですが、そこにもっと余った土地を貸してもらいたいと思うんですが、今、困ってる人もあると思うんですが、その辺どうでしょうか。よろしく願います。

【総務課長】

総務課長の河野といいます。よろしくお願ひします。この度はご迷惑をかけております。

職員の給与ですけれども、類似団体といいますか、14市の内では職員の普通会計における順位は14団体中9番目となっております。それから給料ですね、なかなか比べにくいのですが、全体的な給与だけを平均でとらえたときは、14団体中、平成30年度で7番目くらい。それから平成29年度は14団体中の9番目ということで、大体真ん中かちょっと高いということになってると思います。そういうことでよろしいでしょうか。

【質問者2】

それは大分県ですか。

【総務課長】

大分県であります。

【質問者2】

財政規模で杵築市は、やっぱり中辺ですか。

【総務課長】

財政課長に聞きましたら、真ん中よりも下ということでもあります。

【質問者2】

今までは、給与体系としては良かったという判断ですか。

【総務課長】

真ん中ぐらいだったと思っております。

【財政課長】

公共事業の査定が甘いということで、近年大型事業が、継続しております。ひとつ合併特例債という有利な起債があるということで、老朽化した施設の建て替え、やり替えなどに有利な財源があるうちに取り組みたいという思いが勝ちすぎたという思いはあります。

【質問者 2】

申し送りなのですが、その収入のところですね、もっと民間の活力というんですか、そういうのを導入したらどうでしょうか。それをちょっと言い忘れたんですが、よろしくお願いします。

【財政課長】

収入の確保でございます。この緊急財政対策につきましては、超短期的な取り組みでございます。もちろん企業誘致等を行って、経常的にずっと続くという意味の市税収入の確保等もあわせて中長期的に取り組んでいかなければならないと考えております。

【副市長】

それともう一点ですね。市有地の活用ということで、遊休な市有地があれば、お貸しできないかということでございます。その点につきましては、是非何らかの活用があれば、市の財政課の方に申し出を頂きたいと思っております。

【副市長】

はい、後ろの方。

【質問者 3】

14 ページのことで、質問があるんですが、14 ページの(3) 財政収支試算対策後となっております。確かにこの表を見ますと一番右下の令和4年度の財政調整基金残高は10 億円を超えておりますので目標は達成してはるんですが、単年度の不足額を見るとですね令和2・3・4 とそれぞれ2 億7 千万円、3 億5 千万円、2 億9 千万円の赤字がずっと続いております。ということは、あと3 年、令和5・6・7 年の3 年でこの財政調整基金残高は0 円になると思われま。少なくとも令和4 年度にはプライマリーバランスが健全化していないと令和5 年以降ですね、あっという間に基金が尽きてしまうと思われま。その点についてどう考えておられるかよろしくお願いたします。

【財政課長】

一番上の財源不足額につきましては、この表は予算ベースで作っております。この財源不足額を算定するにあたりまして、収入につきましては非常に厳しい見積もり、あるいは留保財源を考慮した収入で見積もっております。

例えば令和2年度で申しますと、この対策を実現いたしまして、こういう予算が組めた場合は決算ベースでは留保財源それから予算の未執行等が出て参りますので、この予算額を実現して決算では、この不足額を限りなくゼロに近づけたいという、そういうことでこの表を作らせていただいております。

【質問者3】

ありがとうございました。ただその説明を受けますと、財政調整基金が減ってくるのはおかしいような気がするんですが、まあ、いいです。

【副市長】

はい、次の方。

【質問者4】

繰り返しになりますが、今回、こういう事態に陥ったことに対する市長とか市の幹部、何か責任感の無さが目に見えてしょうがない。今回こういう対策を練って今日説明してくれておるわけですが、果たしてこれ本当にいくのかなという疑問すら思うわけです。今までの状況からして、これはもう見せかけじゃないかと、悪く言えば、そういう気がしてしょうがない。

まず一つは、歳入の予定ですね。将来、大企業も撤退するところもあります。産業、農業、漁業、地方の産業、一次産業はどんどん衰退していく一方です。そういう中で、市税がどれだけ入っていくのか、今のまま、そのまま継続できるのだろうか、おそらく億単位ぐらいでどんどん落ちていくんじゃないか。私はそういう見通しさえ思っております。それを考えずにですね、現在の収入歳入、その額を基にして何をいくら削減したらこういう収支になるという説明で、さあ本当になるのだろうか、ならなかったらどうなるのだろうか、そこら辺は全然見えてまいりません。それから人件費の削減というのがその中にあるんですが、人件費は今給与のカットという対策でなんか乗り切ろうとしております。それが果たしてこれだけの数字になるのだろうか、何十人も職員を削減せんとこういう数字は出てきませんね。そういう人たちのこれから先の生活をどうする、どう思って削減しようとしてるのか。まあ、現在の職員を早く辞めさせてどこか関係する先に、例えば公民館長の後回しにするちゅうな話も聞こえております。本当、今の公民館長はどうするの。これは契約雇用ですからしょうがないといえそうかもしれませんが、こういう行政そのものの怠慢によった結果が、そういうところにしわ寄せが行ってしまう。こういうこと考え方がどうなんでしょか。許されるんかどうか。それから一般事務事業の見直しの中で、例えば極端な話、ニ

ユースを聞いていますと、もうテレビでも出ましたが浴場の休止・廃止、なぜ廃止せないかんか、これは一例ですよ、私が申し上げるのは。例えば杵築福祉センターの浴場の廃止をすることによって、250万円削減ができる。その250万円の削減ということを言いかえれば、現在浴場の運営するのを250万円余分に金がかかっているからだと、辞めてしまえばその金は要らないという恐らくその発想だと思う。こんな赤子みたいな発想をする。100円のところを200円にしてみなさい。年間900万円の収入です。現在650万円です。それで250万円不足するからということでは辞めるんですが、200円にしたら900万円入る。要は今の利用料よりも200万円多く利益が出てくるわけです。そういうようなことをなぜ考えずに辞めると休止するという結論になるのだろうか。報道があったから結論として我々は受け止めておるんですが、そんな幼稚な改革案ですね、すべてやられたんじやたまらない。そういう気持ちでおりますが、ちょっとご回答をお願いします。

【財政課長】

まず、あの歳入の見積もりでございますが、また14ページの財政収支の試算に戻るわけでございますが、令和2年度以降の歳入の見積もりにつきましては、市税の減税分、それから普通地方交付税も合併算定替が終わり一本算定へ向かう、さらに令和2年度に国勢調査がありますので、令和3年度からは、新しい国勢調査の人口で普通交付税が算定されます。そうした減額要素を加味したうえでの財源不足額ということで設定をさせていただいております。

【総務課長】

総務課の河野であります。人件費につきましては、ご指摘の通り大変この度はですね、今働いている方々については、大変申し訳ないと思っております。やはり人件費の削減にあたりましては、言われましたように私どもの、もちろん三役、職員等々の給与カットは当然であります。それから、今働いている方々の職場、もちろん、先ほど言っていましたように契約雇用ではございますけども、1年の中で次の年については、配置をしないというような判断をする中で、今後ですね削減していくこととなります。そこに人がいなくなるということになりますが、職員がそれをしっかりとカバーしてですね、行かなければならないと思っております。あとそういった形で捻出をしていくということ。残業手当を減らすとか、いろんな工夫で人件費の方を削減に向けて積み上げていくというふうに考えております。先ほど公民館等々、具

体的な名前が出たんですけども、公民館につきましても人件費を削減するというので、公民館長さんを、そこについては配置をせずに、職員が行って、職員がこれまでのノウハウを生かして、その地域の、今実際、小規模多機能と言いますか、地域の自治協の仕組みとか、そういうのをやっていくということで、再任用職員を配置し、今の臨時嘱託さんの給料を削減して再任用職員を配置していくという方針を出しているところでございます。よって、皆さんから新聞等でも弱い者いじめということで言われております。確かにそうでありますけども、この危機を乗り切るには、この手段を私共は選択をしているということでもあります。誠に申し訳ございません。

【財政課長】

一つ、例示として、その前のお風呂の件をいただきました。事務事業の見直しの中で11月25日に議会の全員協議会を開かせていただきました。その中で具体的な事務事業をリストアップして議員の皆様にはご提示をいたしました。その中で、おっしゃるとおり新聞報道のとおり、お風呂の廃止ということも、いったんリストアップをさせていただいて議会にご提示をさせていただいたところでございます。安易なリストアップだというご批判でございます。まさにそのとおりだと思います。また、市としては報道に沿った正式な公表をしてはないんですが、その情報統制が取れずにあのような新聞報道になったことも合わせてお詫びを申し上げます。いったんリストアップをさせていただきましたが、まさにおっしゃる通り、そのような新たな方法をすでに市民の皆様、あるいは職員から提示を頂いております。効果が出れば方式は廃止にこだわるわけではございません。効果ができれば十分でございますので、そういったご意見を承って、新年度の予算編成の骨子を固めて改めて皆様にご提示を差し上げていきたいと思っております。以上でございます。

【質問者4】

ちょっと、関連して、先ほど言い損ねましたが、例えば私は今、お風呂のことしか言いませんでしたけどもね、例えば文化体育館の中で、健康器具を使ってトレーニングをやってる事業がありますね、ああいうのも個人事業主に委託させた契約でやってるわけですが、ああいうものもですね、実際、確定したのはどうなっているのか分かりませんが、ちらっと聞いた話では、要するに契約額の何%かカットするとか、事業を辞めるとか、何か話が行ったり来たりしているようでございます。実のところは分かりません。いずれにしても、ああいう事業の休止をするとか、契約金を下げるとかいうこと

の前に使用料を上げてできるんじゃないかということ、一つまな板に乗せるという考え方を、是非頭においていただいて現在、それを受託している人が、のちのち生活に困らないようにしてあげるのが、やっぱり行政の仕事じゃないかとそう思いますわね。そこのところをよく検討しておいていただければと思います。併せてお願いいたします。

【副市長】

はい、ありがとうございました。他に、一番後ろの方。

【質問者5】

まず、この資料を見せていただいてですね。私は毎月、ある企業のバランスシートを全部目を通してるんですよ。だから、その中で5年計画、4年計画、3年計画、2年計画、1年計画全部あるわけです。もちろん、売り上げから利益から人件費から全部、要するにトータルマーケットをやってるわけですよ。さっきの話を聞きましてね。大変驚いてるんですよ。なぜ驚いたかって言うとね、これを5年間放置した責任というのは誰がとるかっていうことですよ。これ、もしですよ。さっきご質問がありましたけど、何年か経って本当に第2の夕張になったらですね、この杵築は無くなるわけですよ。間違いなく。金も何にもない訳ですから。サービスも何もないですよ。ゴミの回収さえしてくれない。そんなね、市行政の中でね市民が幸せを感じ生活なんかできませんよ。それで、前置きはさておいて、申し上げたいことが、まず一つあります。

私は東京に18年居りましたがね、株を持ってまして株主総会に随分出ました。今日は、逆のことを言うとね、今日は、残念だけど行政ですから株主総会と違うといえは違いますけど、市長はじめ幹部の方がいらっしゃって、市で税金を払って生活してる市民が株主みたいなもんですよ。話によると市長さんは今回の責任を取って給料を30%、副市長さんは給料を20%カットされるという話でしたね、これ、もしね、一部上場企業でこんなことがあったらね全員クビですよ。そうじゃないですか。これだけ大きな金ですよ。これが例えば5千円とかね、50万円とか、あるいは500万円ぐらいだったらね、集まってきていただいている方がね杵築に対する愛情もあるからね、じゃ500万円だったら皆で金を出してやっちゃおうかということになりますよ。だけど大変な金額ですよ。それでね、さっきも質問があったんですけど、3年間で黒字になるんじゃないくて赤字なんですよ。こんな計画なんていうのはね、もし民間企業だったらね、民間企業のトップだったら絶対こんなこと作りませんよ。さっき話を聞いていると今回の行財政計画再編に

対しては、今の市の職員のプロジェクトを作って、そこでおやりになるという話がありましたね。2番目に有識者で構成したプロジェクトを作ったとおっしゃいましたね。こういう形の結果を作った行政の職員が、リストラクションなんか絶対できませんよ。断言しときますよ。120%できませんよ。だったら5年前からもうできてますよ。本当に。さっきいろいろ意見がありましたけど、もう一回、この資料をやるためにはね、もう一回足元をじっくり見てね、責任を十分考えていただいて、とにかく給料を3割カットしたらね、俺は責任を取ったんだというような顔は止めてほしいね。何を言ってんだよ。ゼロだよ、ゼロ、給料は。そのぐらいの気持ちで、やるんだったら市民も一生懸命協力しますよ。冗談じゃない。30%で云々だって、どっかの国の官僚みたいなことは、言わないでくれよ。それともう一つ。先ほどバランスシートの話をしたんですけどね、いろんな資料の中で、よくできてるようだけど、ものすごく欠陥だらけ、それは何かと云ったら%が全くないっていうこと。例えばね、質問しましょうか。行財政計画だったか、例えば議会が協力してくれたって、金額が出てましたね。議会でこれだけ金を出してもらいましたって。これは議会に係る総経費の何%ですか。お答えください。それと人件費もそうです。総人件費に対するこの人件費の削減の%は何%ですか。結論から言ったら私はものすごく低いと思っているんですよ。人件費はもっとたたいて一番カットしやすいところなんです。でもこれは、一番厳しいんですよ。さっきも話がありましたようにね。勤めてる市民の人もいる訳ですから。それをカットするというのは大変ですよ。これは。だけどそれをやらなかったら、杵築市そのものが成り立たないんだから、やるしかありませんよ。そういう点でね、%を教えてくださいよ。何%なのか。それとさっき申し上げたこと2点ですね。市長はじめ皆さん大変だと思うんですよ。同情はしますけどもね、今は同情してる場合じゃないですよ。もう一回足元を見てもう一回襟を正して、自分の給料を3割カットで責任を取ってるっていう、それでいいのかどうか、もう一回足元をご覧下さいよ。

それと人件費削減については、これは至難の業ですよ。正直言って。その2点ですね。%と人件費削減のことについて。よろしくお願いします。

【総務課長】

先に人件費の削減の率をお伝えしたいと思います。6.8%。計算上は6.8%になります。人件費については今、ご指摘のありました通り、生活に直結しているところでもありますので、厳しいってことは、もちろん分かっているつもりであります。大変申し訳ないと思っておりますが、足元をしっかりと見ていきたいと思っております。誠に申し訳ございません。

議会費はすいません。もう少しお待ちください。

【質問者 5】

議会費は延期します。今、6.8%という話がありましたけどもね、本当に少ないですよ、6.8%じゃ。やれませんか。正直言って。さっき、どなたかのご意見がありました。これで本当にやれるのかなっていうね。ご質問がありましたけど。私もですね、現役の時、一つの企業のマネジメントをやってきたんですけど、これだけのバランスシートの中で6.8%人件費カットもね、リストラクションも成功しませんよ。はっきり言っときます。そうとういろんな点でね、さっきのお風呂の問題もそうでしょ。もう一つ、最後に言いたいのは、現場をやってる人の意見を聞いてほしいんですよ。現場をやってる人の意見を。雲の上のような存在であった市長がね、何のかんの言たって、高級車に乗ってですよ、それだけ給料もらってね、ボーとしててね、何にもできませんよ、あなたには。

【財政課長】

すいません。回答が遅くなりました。議会費につきましては、24.7%でございます。

【質問者 5】

私は、あんまり高くはないと思うんですよ。杵築の人口は3万人を切ってますね。3万人を切ってる中で今の議員定数は何人いるんですか。何人ですか市長。

【副市長】

18名です。

【質問者 5】

18名いるわけでしょ。2万9千しか人口いないところに18名、多すぎませんか。8名でいいんじゃないですか。そうしたらね、もっと削減できるでしょ、それで。そっちを早くやるべきですよ、そっちを。それを正せば、市民がついてきますよ。この数字の動きを見ててね、本当に思うのはね、危ないですよ。さっきどなたかも申し上げましたけどね。本当に危ないですよ。1年やって、もしこれが別な結果になって、バランスシートがひっくり返るようなことになったらね、本当に責任はだれがとるんですか。それとすいません。最後にこれ、大変恐縮なんですけど、人事院勧告で、この12月

にボーナスが支払われましたね。杵築も。そのボーナスは、どう対応したんですか。話をしてください、ここで。市長をはじめ、全社員が12月に人事院勧告に基づいてボーナスをもらってますよね。全額もらったんでしょ。そうでしょう。だからね、さっき申し上げたように、これだけ危機管理、10月に分かってるんでしょ、その前から分かってるわけでしょう。分かってて、これだけ人を集めてね、これだけの資料を作って、大見得を切って、3年たったら絶対やりますよと言ってね、12月はね、人事院勧告のボーナス、いやこれは黙ってりゃいいよ、杵築の市民はおとなしいから、そんな形でみんなもらっちゃったんだ。普通だったらね、人間だったら、ごめんなさいって市長がね、悪いんだけど半分だけは返そうじゃないかっていうくらいのことをね、言ったらどうですか、皆に。

【質問者6】

いつも秘書広報課には、苦情を申し上げに行っているのですが、ご存知かと思えますけど、私は今日頂いた資料、この場で精査できるほどの能力がないので、今まで引っ越してきてから4年経つんですけど、4年間に配られた市議会だよりの議員さんが作成した討議の内容について、ここ三日ほど徹夜して見てきました。その内容でちょっとお尋ねしたいことなんかがありますのでお願いいたします。新聞報道ではですね、その平成30年の決算の作業中に危機的状況に気付いたというお話でしたけども、現実にはですね、もっと前にその市長さんからの発言で危機的状況だということを知られているということが議事録とかに残ってるわけですね。今それは、あの先ほどちょっと聞きましたらば、大田会場でも山香会場でも指摘があったということで、なんだ僕がちょっとスクープしたと思ったら残念なんですけど平成27年の10月にですね、杵築市行政改革推進委員会というのが新しく立ち上がりまして、その会議の中で、新しく委員長になられた方のご発言で、ちょっと読みますと、これ議事録なので私が作ったものじゃないんですけど市が作ったものなんですけど、先ほど市長の方からご挨拶があったが、地方における財政改革というのは非常に重要な時期を迎えていると思う。杵築市においても、ここからが大事なんですけど市長のご挨拶によると、このままいくと経常収支比率は100%を超えてしまう状況を迎えているということだということだ平成27年の10月2日に行われた行政改革の推進会議においてですね、市長がそういうご挨拶をしていると委員長さんが申して議事録に残っております。平成30年の決算をしている時に気付いた割にはですね、平成27年の10月にはそういうごあいさつを会議の頭でですね、されているというのがどうも私には理解ができないんですよ。それで先ほど、まあこれからどうした

らいいかという意味で言いますとね、未収金対策の徹底だとかふるさと納税の拡充だとか、そういうことで削減を、お金を増やして職員数と人件費の削減に取り組むという話なんですけど、これに関してもですね今更の話であって、既にですね平成30年の3月の議会で財政課長さんが単年度収支は1億2,600万円の赤字なんだけれども、その経常収支比率は年ごとに上昇してきていて、財政の硬直化が進んでいる状況であるということで、ご答弁されてるんですね。この時点で、危ねえな・危ねえなってご存じだったんでしょね。なんかそのすいません、分かんなかったんですよって言うけど、それが分かんなかったら仕事をしてないってことでしょ。それでね、確かに誰でもミスはあると思うんですよ。だけど、ミスをしてはいけない部署だって、先ほどもお話が出てましたけども、ミスをしてはいけない部署だし、何重にも監査が行われて、何重にもチェックをしたうえで、上に上がって上席者ごとに印鑑を決裁したりして、議会に出してっていう形のはずなんですよ。市の広報誌みたいにね、誤植ばかりでね、写真の内容は違ってる、文字は違ってるわなんて、そういう内容じゃないんです。分かります。大体ね、税収を上げるって言ってもね、昔、派遣切りってのがございまして、派遣切りによってその杵築市に住んでいた単身者の方なんか、正直、市民税も払わずに逃げちゃったりしてる例がいっぱいあるんですよ。そのお金を滞納処分しているかどうかは分かりません。ここに税務課長さん、お出ででないんでね。聞きませんが。そういうことをしているにも関わらず、市外に、杵築市の外に住んでいる杵築市の職員の方ってのは、だいぶ多いですよ。私が10月に私の自宅に総務課長、秘書広報課長、秘書広報課の主査がお出でになって、私が苦情を申し上げた内容についてのご説明を頂いた時のお話では55人いるというふうに聞いております。55の方が住民税を杵築市に納めたらいくら入るんでしょうかね。たったそれだけのことが、本来、採用時には杵築市に住むようお願いしているという市長の答弁があるわけです。だけど、それが一向に改善されていないんですよ。そりゃね、嫁に行ってお主人が国東にいるんでって場合には、無理かもしれないですよ。だけど本人がお勤めで男性の方であれば、その方が、ほぼ決定権があると思えば、杵築市に住んでいただくようにしなかったら税収なんか増えないんじゃないですか。それについてはご答弁をされていてね、杵築市に住んでいただくようにもう1回確認するというふうなことで、ご答弁があるんですけどね、危機管理の点や現在進めている協働のまちづくりの観点からも重要な課題だと認識している。採用時には市内居住をお願いしている。職員としての責務と自覚が必要だ。今一度確認させるって言うてるんですけど、何か55人が減ってないってことは、何もやってないんですね。更には細かい

ことかもしれませんけど、山香の市立病院がちょっとバタバタしてて、作り替えるとか杵築市内に持ってくるとか、山香のままじゃなかったら山香の人間は許さないとか言ってるわけですけど、それにしてもね豊後大野市なんかで言うと、豊後大野市の市の職員はほぼ100%が市の病院で健康診断を受けていますが、杵築市はそんなことはないんです。心の問題だからそんな事は強要できないと市長はお答えいただいています。心の問題ですか。別にそこで診察を受けるんじゃないんですよ。健康診断ですよ。健康診断を受けて、あとは場合によっては、係りつけの病院に、それはしょうがないと、健康診断をですよ、市の職員というのは市民の模範なんです。市民の誇りなんです。そういう方々が見本を見せないで市立病院なり健康診断のセンターが、いかにしてお金を使わないようにして効率よく運営できるかと努力をされてるのを、協力しないでどうするんですか。それについても心の問題って言って済ませちゃうんですよ。あと一つで終わらせましょう。先ほど、給料を減らす云々の話がありましたけど、本給だけ減らすんでしょうかね、新聞報道だと1%から10%を三か月やって、来年になったら職員組合とお話をしてやるっていうふうな意味合いで聞いてますけど、手当だってね、この3年間で勤勉ではない職員が多数いるのに、勤勉手当が毎年0.1、0.1、0.1、0.05で4年間で0.35勤勉手当が上っています。上げています。それによって単純計算ですけども2,000万円以上の手当がですね、増えてるんですよ。43.1歳334,900円の給料だということ10月に市報に載ってましたけどね、ここ4年間で0.35上がってますから単純計算で一人当たり117,215円の勤勉手当が増えて、ここに頂いた資料246人で掛け算すると2,883万4,890円が勤勉でもないという職員がたくさんいてですね、自分で評価をして、自分で自分のことを客観的に見て、それを上司が決裁するらしいです。場合に寄ったら、俺仕事できないんでごめんなさい、減らしてくださいって言う人がいるのかっていうと休職している人と懲戒処分を受けた人以外、全員が満額受け取っています。

小刻みに上げながら、おかしいでしょ。先ほど、ボーナスもらったんだろって話がありましたけど、おかしいでしょ。本給をカットするって話がありましたけど、手当もカットしなきゃだめでしょ。おかしいでしょ。時間がないうのでこのぐらいにしますけど、本当ね、あの自分たちはお手盛りでいくらでも上げてるんですよ。知らないところで。だって3級職以上の人はボーナスに対して更に100分の15までの加算割合で増やしてんですよ。元々給料高い人だからいいのに、更に増やしてんですよ15%。そういうことに今日の話全然出てこないじゃないですか。おかしいでしょ。まあ、いずれにし

でもお尋ねしたいのは、市長さんが今まで答弁してきた内容と新聞報道、今日お話しいただいた内容がだいぶ違うので、そこら辺の時期的なものとか、まあ浄水場ので40億円のあれが20億円になって、なおかつ監査委員が平成28年には指摘をしているのに知らなかったとかいう話もありますけど、それは後にして、それについてお答えいただければと思います。

【市長】

それではですね、平成27年だったと思います。今のお話ですと、行革推進の関係で、経常収支比率が危険だという認識をしてるじゃないかということです、確かにそのとおりです。ただ、経常収支比率については、もう一つあるのは、行財政改革をいっしょに実施すると、つまりこれだけ財政が頻拍している、そのために行財政改革をやるっていうこれがセットになっております。ただ、その行財政改革が、いろんな項目が何十項目あるんですけども、その中でやはり一番悔やんでいるのは、行財政改革が上滑りになってしまったということです。ここは、申し開きのしようがございません。ですからこういう形で思い切った手を打たなければならない、そして皆さん方にお詫びして、出来る限りの努力をいたします。それともう一つ先頭で走ってる職員、現場にいる職員からそれぞれの事業であるとか、効果であるとか、住民の皆さん方の本当の状況を把握してまいります。今回は課の数を今30いくつあるのを、8つくらい減らしてですね、課を大きくして、イベントであるとか、それからいろんな施設の休廃止というのが今問題になっておりますけども、大きく課をすることによって職員が、例えば毎週イベントがある、それぞれの課でですね、それを4つの課が一つにまとまることによって、お年寄りが来たり、商工会が来たり、それから農業関係者が来たり、子どもさんが来たりっていう、イベントではそれぞれ今まで別々にやってきたことを、一か所にまとめて、月の中で大きなイベントにしていくことによって、それぞれの問題が大きくならずに、休止をしたりとか、廃止をしたりとか、皆さん方にご迷惑をかけないように、そういった案が、すでに職員の中から出ております。これは期限を設けずに今、名前を明かさずにでもいいからということで、総務課の中にメールを受け付けるようになってます。それは期限を設けません。思いついたらずっと言って、どんどん言ってと。そして、その課ではなかなか、自分たちの課の状況であるとか、予算の効率性とかいうところが、見えにくくなるということがありますので、外に出るとよくその課のことが見えるという、そしてもっと言いたいのは、皆さん方が本当はよくサービスの内容であるとか、ここを改善すべきであるとか、これとこれ同じようなことをやってるよというご意見を頂ける、そういった方に大きく

舵をきる、当たり前のことだろうと、その通りです。やはり課が分散してるとアイデアも出にくかったのを、思い切って改革してやっていこうと思います。そういう行財政改革についての取り組みが甘かったというのが本当に大反省のところでございます。それからあとは市外に住んでる人ということにつきましては、それぞれ、介護であるとか結婚であるとか、それから奥さんの勤めであるとか、やはり一人一人聞くとなるほどと思うことがあります。ただ、憲法上、居住の自由というのがありますので、これを、表立って命令はできません。ただ、何回も繰り返しながら、例えば市でいろんな災害があったりとか、手伝いがほしいということが、住民の皆さん方と常に顔を合わせてないと理解できないということもあるんで、やはりそれは市内に住んでいただきたい、もし本当に住めないということであれば、ふるさと納税がありますので、ほとんどの人は協力をしていただいていますので、今できること、そして人権上配慮しなければいけないことは配慮しながらお願いをしているというのが実情でございます。

健康診断は、おっしゃるように豊後大野市民病院は市民が、市役所職員が100%受診をしております。私共も、農業関係もあって、別府にある所に行く人もおります。これは、毎年率が上がっております。8割弱まで上がってまいりました。手ぬるいということも、もちろんよく分かります。ただ、それは命令というのにはできませんけど、ほぼ命令のような形で、今言ってますので100%に近づくように、もちろん当たり前ですけども、頑張ってもらいたいと思います。山香病院の方もシステムも非常に利用しやすくなっています。私も市長になってからずっと検診は受けていますけども、満足のいく状況になってますので、また、市民病院でやってもいいということであれば、またご協力をいただければと思います。以上です。

【副市長】

はい、どうぞ。

【質問者7】

自分は小中高と山香で過ごし、今は結婚して働きだして、10年も経っていないんですけども、来年の2月に新しい命が生まれます。ですが、このような状況になってとても残念に思います。日出に引っ越そうか国東に引っ越そうかと冗談でも考えてたんですけど、ボーナス全額もらっているようなので、今、引っ越してもいいんじゃないかと思ってます。ちょっと3点ほど気になったんでちょっと聞きたいんですけどケーブルテレビの利用料が改定で3,000万円増えるとのことですが1世帯当たり大体いくら増えるのか、

何%増えるのか、ふるさと納税の1億円以上増加を目標としていますが現在いくらの納税額があるのか、何%増えるのか、そして市税の徴収率の向上とあるんですが、現在、何%徴収できているんですか、未納が何%なのか気になるのと、3点をちょっと答えてもらいたいと思います。

【財政課長】

ケーブルテレビの利用料の改定はですね、まだ、正式に決定ということではなく、お願いをする段階なんですけど、この3,000万円の根拠といたしましては、今基本料800円に消費税を頂いて880円を頂いております。それを800円を300円上げさせて頂いて、1,100円に消費税ということをお願いをしたいというふうに考えております。率とすれば37.5%ということでございます。月額です。

【政策推進課長】

ふるさと納税についてお答えさせていただきます。ふるさと納税が今まで、年度を重ねてまいりましたが、一昨年の平成29年度が一番多くてですね、2億5,500万円くらい。これがふるさと納税額の杵築の最高額です。昨年は、ふるさと納税サイトとの契約切れがあったりしまして、それが1億6,500万円くらい。これで1億円くらい去年は落ちています。今年は、最初は予算的には3億円ということを目指してやりました。関係事業者を20から50に増やして、商品は200から500以上に増やしまして、あとサイトの仕組みのうまいような処理をいたしまして、既に今の段階で3億円をもうオーバーするようになりました。先日の議会では、3億5千万円という最高額から1億円プラスの納税額ということで予算を通させていただきましたが、今後来年もまた同じサイトで新たな契約が取れましたので、今から先1億円ずつ増やしていくという計画にさせて頂いております。以上でございます

【財政課長】

市税の徴収率につきましては、93.4%と平成30年度決算で、そうであったと記憶しております。残念ながら、県下でワーストでございます。

【質問者8】

言いたいことはたくさんあるんですが、もう呆れ返ったというような状況ですが、その前にですね、ここに12ページ、年度別の財政対策で人件費の削減とか議会費の削減ということがございますが、市長はここから逆算しま

したら1, 900万円ぐらいあるんですか。30%のように聞いてましたからね。30%ということで、ここに2, 000万円ちょっと出てますね。だから逆算したら1, 900万円から2, 000万円、これはまあ、いいですけどね、臨時職員の削減34名、この方々はどうするんでしょうね。責任を感じてくださいよ。本当に。この人方はね、年末も迎えて正月を迎えますね。仕事もない収入もない、来年からどうしようといひます。だから単純にね、簡単に削減とかね、やっぱりそれらのことを考えてください。それじゃなかったら、市長が30%削減するんだったらね、もっとしてくださいよ。それでも生活できるでしょ。あなた金持ちみたいだから。そうしてくださいよ。そうしないと臨時職員はどうしようもないわ。自分はその身分になった時どうするの。これが天災とかそういうことだったら致し方ないということもあるでしょうが、これは皆さん方の経営責任によってこうなったんです。だから皆さん方が責任取らなきゃ。皆さん方と議員さんも、これOKしたんですよ。これは、切に願いたいね。いずれにしてもこういう機会を3・4か月に一回、進行状況をどうなっているかをね、確認の場を作ってください。そうしないと、1年経ってね、こうでした。それじゃもう、どうしようもない。お願いしときます。

【質問者9】

7年前に定年後帰ってきました。今の赤字とか、そういう関係、2巡目国体で変な体育館を押し付けられたり、中学校の文化財の発掘とか、中学校の建設が終わってそのための赤字というのが、かなりあると思います。だからその点は猶予するといたしまして、住民はですね、住みにくいところから逃げていくんですよ。ネズミだって沈む船からは、その前に居なくなるんです。だから今、杵築市民がどれだけ減っていくのか、見とってください。恐らく私も1年後にはいないと思います。ただ固定資産税はこちらで払っていますので、区には残って多分いると思うんですけども、お墓も見らなきゃいけないし、ある番組を見てた時に、住民は住みにくいところからは逃げていくんだと、その多くは、過疎ですかね、杵築、竹田、佐伯、豊後大野もそうでしょ、国東もひどいと思いますね、今のままじゃ、とにかくできない、どうするか、一番いいのは、県と市町村を合併させるんですよ。今大阪府が言ってるじゃないですか。府と市が競合してる部分がものすごく多いと、県だって保健所とかいろいろ抱えてる。市町村も福祉関係とかいろいろな面で競合した部門というのは相当あると思います。建設もそうです。市道がある、県道がある、国道がある、それを県がみてるのと、市がみてるのと、だから大分県の場合は、大分市・中津市、これは除いて全部県と市町村が合併する

と、というような構想も考えられるんじゃないかと思うんですけど、これはちょっと、大きすぎますかね。ただ、しかし住民は確かに逃げてる。それともう一つ、さっき言いよった市の職員が市外にいる。簡単なことです。そこ辺、アパートなんぼでも空いています。ここは、私の近くにアパートあるんですけど、ここに自転車が8台停まっています。おそらくベトナムの方だと思うんですけど、二階建で一戸分に多分8人入っていると思います。だからこっちで借りて、住所だけ写して、単身赴任させればいいじゃないですか、私なんか10何年単身赴任しました。そしたら行ったところで住民税を落とします。それも考えてみたらどうですか。ちょっと言い過ぎかな。ただですね、40数年前にですね、〇〇市が赤字再建団体になりました。これあの何年で解消したのか私も確認してないんですけど、住民自体はそんなに悪くなってないですよ。一回はそういうのも経験したら合理化っていうのが出来るかもしれません。これ極端な話です、ならないならならぬでこしたことはありません。だけど、一回そういうのも経験したら、〇〇に親戚があるんですけど、住民がそれでどれだけ困ったかという、そんなに困ってなかったというような感じですよ。まあしかし、頑張ってください。こういう状況になったのは、仕方ないと思います。杵築を私も愛してますし、小中高この地で過ごしました。そしてどこに行っても、杵築はいいところですよと言ってきました。私が行ったのは、海辺ばかりですけどね。海があつて湾があれば、杵築と同じだと。故郷愛は持っております。だからまあ、こういう状況です。国みたいですね、赤字国債ばんばん出して、全部、日本銀行が買入れて、お金刷ってばんばん出せるなら、こんな楽なことありませんよ。日本の国はこれは潰れます。年金とか、そういう問題、簡単です。日本銀行が200兆円お金刷ってばら撒けばいいんですよ。そして、その分は赤字国債買ったんだからと言って、日本銀行が資産増えましたよって。日本の国めちやくちやですよ、それを地方に健全化しろと言っても、難しいとは思いますがけどもまあ、厳しいとは思いますが頑張ってください。

【副市長】

ありがとうございました。他に。時間もそろそろ来ますので、3分以内ぐらいで お願いしたいと思います。

【質問者10】

今日、今回この資料を読ませて頂いて北海道夕張ですね、財政破綻という市があったわけですが、私は杵築が、この状況を見てると近い将来そうなるんじゃないかなとすごい不安を感じました。特に4ページ目ですね。い

ろいろ収支が、例えば14ページですか、先に14ページ目です。毎年、令和2年から不足額を財政調整基金で繰越しますよということで、概算で言うと3億円、3.5億円、3億円というふうになってますが、その時点で最終的に基金の残高を一応10億円は確保しますとおっしゃってますが、4ページの基金の推移というのを見ると平成29年度には、もうすでにその兆候が表れているんですけども、平成29年度には財政調整基金、いわゆる自由に使えるお金というのが40億円近くあったのがですね、2年すると半分に減ってる。20億円まで減ってる。一応、3年間でですね、令和4年まではこうなりますよということで、緊急ということで、財政対策ということで素案を出してますが、じゃ、この後はどうなるのと、10億円減ったものが、いや3年で10億円は確保しますよと、じゃ残り10億円でどうするんですかと、先ほどいろいろ人件費の話もされてましたけども、そういう方々もいつまでも、苦しい状況に追い込めたままで、先があるんですかと、杵築にですね、居を構えて30年くらいになりますけども、私は個人的に杵築は非常にいい街だと思っているので、長らく住みたいんです。でもこのままだと、公共サービスが個人の生活を圧迫するような状況になってしまうと、いわゆる本当に住めなくなると、それだけは勘弁していただきたいと、そうするとここで出されている緊急財政対策っていう素案っていうのは本当に読めば読むほど市民に一応示すだけの逃げの内容じゃないんですけど、一応何とかもつてますよ、財政破綻行政にはなりませんよと、なんかそういうふうにしかならないんです。本当にですね具体的に例えばそんな10年も20年もは無理ですけども、公共事業もやらなきゃいけないでしょうし、色んな対策打たなきゃいけないでしょうし、その辺で例えば最低5年とか、市長さんが替わられたあと6年とか、こういうところですねどういうふうに持って行こうとしていきますと、杵築はこういう住みやすい町になりますよと、こういうふうにかバーできますよと、いうところをですね、理解を含めてもうちょっと検討していただきたいと、その検討案を市報で紹介するなりしてですね、杵築市民が本当にここで暮らしたいと思えるような状況をですね、もう遅いといえば遅いかもしれないんですけど今からでもやっていただきたいと、私は財政破綻の市に住みたくはないですけど居を構えて30年経ちますから住まざるを得ないです。もちろん、この町が好きですから住んでますが、逃げ出そうとは全く思っていないんですけども、そうせざるを得ない状況は、避けるようにしていただきたいというふうに思ってます。

【市長】

近い将来、夕張になるんじゃないだろうかという、大変な不安を与えていることに対しましては、本当に申し訳ないと思っています。私ができること、全力で不転の決意でやるのが、財政再生団体にならない、ならない目途をつけるということで全力を尽くしたいと思います。杵築が大好きで、住めなくなるんじゃないだろうか、サービスがどんどん低下するんじゃないだろうかという思いがあると思います。ただ、財政状況が厳しいというのは、これはやはり、国の施策が本当に充実してきたということです。例えば介護保険であるとか、それから国民健康保険であるとか、難病の人とか、生活が厳しい人にも、国民健康保険がきちんと支給されていますし、介護保険も充実してきた、もちろん介護予防の方は少し市町村のことになるんですけど、いずれにしましてもそういうところが、充実すればするほど市の一般財源というのはそちらに持っていかれます。

そういうことで、私どもとしましては合併特例債、これについて、今、必要な事業はすべてやったと思っています。要望に応じてそれをやりました。ただ、急激な人口減少とそれから杵築が持っている、その建物自体、建てた当時は良かったんですけども、今大型の施設が類似団体からすると多すぎるということです。それに対する維持費、管理から起債を返していかないといけない。そういう杵築ならではのものが、一時に起こったという、ただ財政再生団体にはならない、それはもう皆さんにお約束をしたいというふうに思います。

これはもう私が在任期間中ということになってしまいますけども全力で、この職員すべてひとりひとり、皆さん方に不安を与えるということが一番大きな問題です。こういう形で緊急財政対策は取りましたけども、財政再生団体にならないということで、こういう計画を立てております。先ほど、こういうご負担をお願いしないといけないということもありますけども、それは次の大きな波に飲み込まれないように、今ここで皆さん方のもしご協力を頂ければ、本当にありがたいと思っています。大変ご無理なことを申し上げましたけども、是非いっしょに乗り越えて頂けるとありがたいというふうに思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【質問者11】

さっきから、何回も頑張ります、頑張りますって言ってますけど、耳にタコができるくらい聞きましたけどね、よく見てください14ページ、これね、正直、子どもでもわかりますよ。これ本年度ですよ。20億円、1年後17億円、令和3年度ですよ13億円、令和4年度は10億円、これ会社

だったら潰れてますよ。これ、はっきり言って作り替えたほうがいいですよ。これ、誰も納得しませんよ。誰か納得する人いますか、いませんよね、こんなマイナスにどんどんなっていくやつ、これ作り替えましょうよ。話になりませんよ。で、頑張りましょうって、皆さんおっしゃってますけど、私なんか市民は安い給料で一生懸命働いて、少ない給料の中で何とか生活してるわけですよ。皆さんぬくぬくでしょうけど、申し訳ないですけど給料の開示、本当に頑張ってやってくれて言うんだったら、開示してもいいと思いますよ。ぜひ、それはやってください。それと、最後になりますけど、質問する方、皆立って質問してましたよね、回答される方、皆座ってますよね。こんなのあります。もう危機管理が無い。これにつきますよ。誠意がないですよ。一生懸命、働いてやってきて、今も苦しい、消費税も10%に上がりました。物価も上がりました。どんどん苦しくなってるんですよ。そういう中で、頑張ってくれて言うんだったら、それなりの誠意も見せてくださいよ。皆ついていきますよ。そしたら。今日自分の中で分かったことは、期待はできない。これの一つです。私は以上です。ありがとうございます。

【副市長】

はい、ありがとうございます。あと2名。

【質問者12】

本日、聞きたいこと、いろいろ用意してきましたけど、皆さんが聞きたいこといろいろ質問してくださってますので、私はもう意見を言いたいと思います。私も生まれてからずっと杵築に、進学や就職やらで一時は離れてましたけど、ほとんど杵築におります。その中で何度も市役所は利用しますが市役所の職員の皆さんですね、どうも毎回毎回やる気のない職員が市民課やら何やらカウンターの近くにいるなど思っております。目の前でお昼ご飯食べられてたらサービス利用したくはないんですよ。もっと、つい最近です、お昼頃にしか時間が取れないので市役所行きましたら皆さん仕事机で市民の見える位置で、ご飯食べてまして、何ともぐうたらしておりました。それ以外にもですね、もう何年も前になりますけどゲームをしてる職員がいたんですね、よく見える場所でした。この杵築市どうなるんだろうと10年も前に思っております。結局今回のようなニュースになっておまして、それはもうなるようになったなど思っております。今回こういうふうに資料を作っていただきましたけど、正直我々一般市民にとって、ほとんどの方が見にくい資料でございました。説明されてもこれ一体どういうことだろうと分からないことの方が多かったです。市民みんなが分かる資料作りをしていた

できたかったなというのが、今回通しての思いでございます。今回、大田・山香・杵築で厳しい意見はいろいろ出たと思います。これが現状です。それで今回だけで説明会終わっていただきたくはございません。年に定期的にでも、こうやって我々を集めてお話をさせていただく機会を設けていただきたいと思っております。

先ほど言いましたけど、市役所職員、やる気の無さは本当に見えておりますので、市長を中心にして気を引き締めていっていただきたいと思っております。我々はもう常に見ておりますので是非、今後、財政再生団体にはなって頂きたくございませんのでどうぞ気を引き締めて、ここに来ている皆様だけではございません。来てない市役所職員全員です。気を引き締めていただきたいと思っておりますので、その点よろしく願いいたします。

【副市長】

ありがとうございます。もうお一人。

【質問者 1 3】

今まで皆さん色々なことを言われてましたけど、それで、まあこの合併後の大型事業と書いてありますけども、削減事業とこれからも継続していく事業の詳細が全く分からないなという。何を削減して、何を続けていくのか、それにどれくらいのお金がかかるのか、その内訳はどうなっているのかっていうのが全くわからないなっていうのが、その辺の開示っていうのは、できるのかっていう、その1点だけでございます。

【財政課長】

本日、いろんな意見を頂きました。この説明会もこれで終わりではございません。私、当初予算編成作業に入っておりますし、これからも入っていきます。本日の意見を受け止めてですね、具体的な事業等をお示しすることで、年明けの予算の確定の前に再度、参りたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【質問者 1 3】

年明けに行うってことで、よろしいんですか。

【財政課長】

予算の編成作業がございまして、いつと今時点でお約束はできませんが、1月末から2月初旬にかけて、皆様にもう一度お話をさせていただきたいと思

っております。

【副市長】

はい、本当に夜遅くまで貴重な時間をいただきまして、たくさんのご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。叱咤激励と申しますか、お叱りの言葉をたくさんいただきまして、私どもも気を引き締めてですね、再生団体にならないように、頑張っていきますので、皆さん方にご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

最後になりましたが、市長からご挨拶を申し上げます。

【市長】

皆さん、夜遅くまで私どもの不手際もありまして長い時間になりました。今、状況を報告いたしますと例えば地方交付税の減額等もございまして、これはまた、年明け早々ですね、総務省の方に行って、いろんな大型事業をかなりやってきました。なかなか厳しい状況がありますので、地方交付税の陳情であるとか、各国会議員の先生方を回る、あと、県の方で地方行政とか財政をつかさどる所が、総務部の市町村振興課というところがあります。そこで何人も来ていただいたりとか、それから心配して上部の方々が私に直接いろんなアドバイスを頂いております。財政再生団体にならないっていうのは、ここでお誓いを申し上げます。信用できない。こんな体たらくで、どうしてやるのかっていう話もあると思いますけども、それで私共がこういう形で、皆さん方にお時間を頂いて、説明をして、やっぱり至らないところが、説明の仕方であるとか、資料であるとか、立ってものを言わないかっていうことも、当たり前のことをご指摘いただきました。これは、ここの会場だけでなく、ほかの会場でもやはり、市の職員の働きぶりっていうのも、しっかり指摘をされました。本当に生まれ変わるという形で頑張ります。頑張るのは当たり前ですね。当たり前ですけども、当たり前のことを当たり前と言わないといけないというのは、非常に恥ずかしいところがございます。いずれにしましても、財政再生団体になって、皆さん方に本当に苦しみを味あわせることのないということで、命がけで頑張りたいと思いますので、勝手ですけど是非、ご協力を賜ればと思います。よろしくお願い致します。今日はありがとうございました。